

## 6. 大型クラゲ出現調査事業

幟川亜希子・舛田大作

近年、日本海沿岸でエチゼンクラゲの大量出現が頻発しており、定置網、底びき網などの網漁業において操業の遅延、漁獲物の鮮度低下、網の破損などの被害が見られている。長崎県においても夏季～秋季にエチゼンクラゲが大量に来遊し、同様の被害が報告されている。そのため、(社)漁業情報サービスセンターの委託により、大型クラゲの分布状況等を把握し、的確な大型クラゲに関する情報を漁業者へ提供することを目的として、陸上調査、洋上調査を行った。

### I. 陸上調査

各水産業普及指導センターと協力して、漁業協同組合など関係機関からの聞き取り調査を実施した。

#### 方法

平成28年6月～平成29年3月までの約9ヶ月間、各水産業普及指導センターが聞き取った大型クラゲの出現状況を(社)漁業情報サービスセンターおよび長崎県水産部漁港漁場課に報告した。

#### 結果

平成28年度における県内沿岸域での大型クラゲ出現状況は、6月28日に初めて対馬市豊玉町志多浦の定置網で2～3個体(傘径20～30 cm)の大型クラゲが確認

された。その後、9月上旬頃まで、対馬で数百個体の大型クラゲ(傘径50～100 cm)の入網が続いていたが、10月以降の入網は確認されなかった。

#### まとめ

平成28年度の県内沿岸域での大型クラゲの出現は、去年と比較すると多かった。

### II. 洋上調査

調査船やセスナ機等を用いて大型クラゲの目視調査を実施し、調査結果を(社)漁業情報サービスセンターおよび長崎県水産部漁港漁場課に報告した。

#### 方法

調査船により8月に壱岐・対馬の周辺海域を目視調査した。

また、セスナ機により3回(7, 8, 9月)、壱岐・対馬の周辺海域を目視調査した。

#### 結果

調査船による目視調査では、対馬北東海域で3個体、セスナ機でも主に対馬北東海域で数十個体の大型クラゲが確認された。

(担当：幟川)